

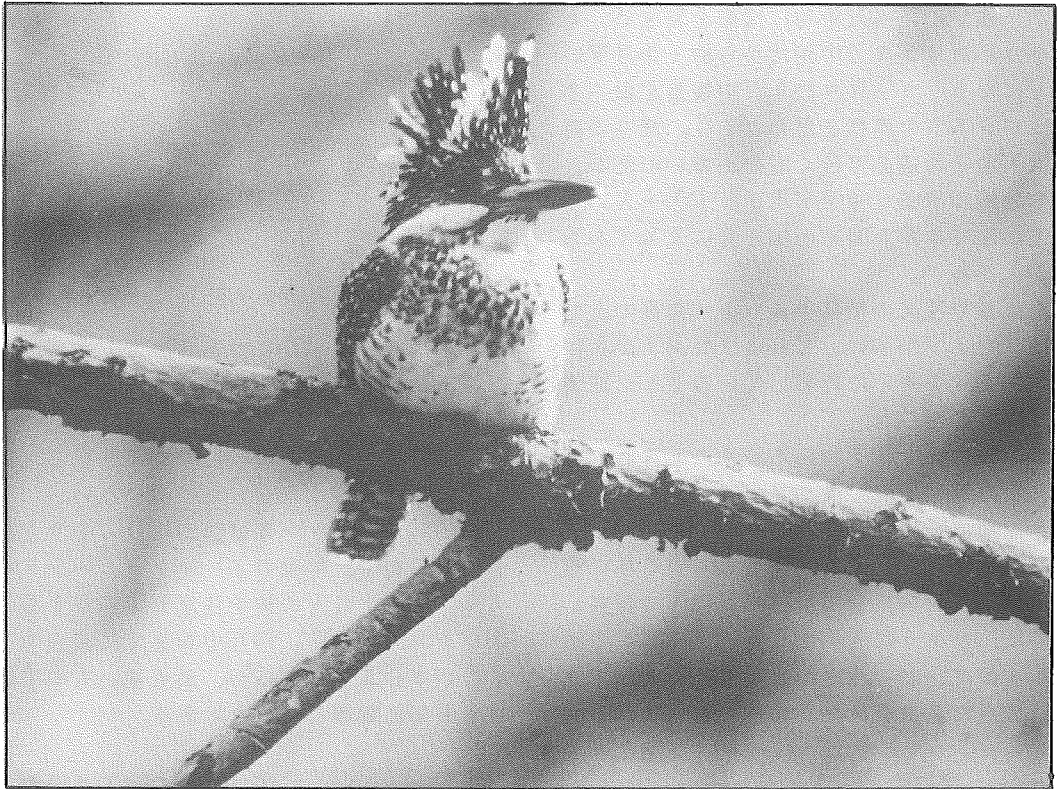


1986・9

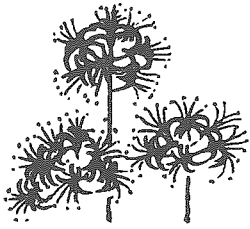
第 28 号

# しろこぼと

日本野鳥の会 埼玉県支部



ヤマセミ（カワセミ科） ヤマセミと言えば、私は、8年前の高麗川のかたすみに作られた、小さなブラインドを思い出します。私は、このブラインドでS氏と出会ったのです。そして、このブラインドから私が声をかけ、ふりむいたK君は、今年S氏の助手としてお手伝いするそうです。今も私の胸には、8年前のヤマセミが蘇ってくるのです。 （写真と文・平野伸明）



# 南へ、南へ……

9月は旅鳥たちの渡りの季節。高原や山にいた夏鳥たちも、南へ渡る途中に寄っていきます。これらの夏鳥は、冬羽であったり、鳴かなかったりして目立ちはしませんが、注意していると、意外とよく見られるものです。

今月は、ベテラン三人の方に、そのような鳥ツツドリ・サシバ・ノビタキについて、教えていただきました。

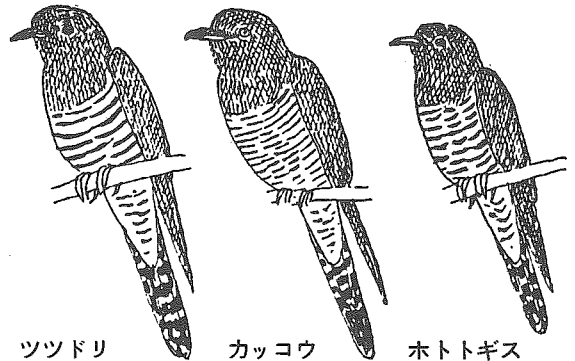
## ツツドリ

松田 喬(上尾市)

ツツドリはホトトギスの仲間では渡来するのが一番早く、4月中旬には姿を見せる。カッコウの渡来が5月中旬だから約1ヶ月早いことになる(カッコウの4月の観察記録の多くはツツドリの誤認と思われる)。渡りの時には平地を通過してゆくものが多いのだが、あの独特のポポポポポポポ……というのどかな鳴き声を聞くのは5月に入ってからことが多い。

奥武蔵や秩父の標高千メートル前後の山地にはツツドリが多い。これはツツドリが主にセンダイムシクイに托卵していることに関係しているのだろう。

秋の渡去は8月下旬から始まると言われるが、私の観察記録では9月上旬が最も早い。トケン類は毛虫が大好物なので、アメリカシロヒトリなどの毛虫が大発生している林に集まって来る。桶川市川田谷の泉福寺で観察した時は、サクラに大発生した毛虫を夢中で捕食していて、じっくりと観察することができた。大きな毛虫を次から次へと食べ続けるの



ツツドリ

カッコウ

ホトトギス

で、その大食漢ぶりにはあきれてしまった。ツツドリは琉球列島を南下して、中国南部、マレー半島、ニューギニア、オーストラリアなどに渡るといふ。長い渡りを乗り切るための大切な体力づくりだったに違いない。

この時期のトケン類は静かにひっそりと暮しているのだから、毛虫の多いサクラ、ハンノキ、ニセアカシアなどの林を注意して観察するのがポイントである。10月中旬までに渡去するものが多いようであるが、最も遅いものでは11月上旬に観察したこともある。

## サシバ

石井 智(与野市)

サシバと聞いてワシタカの仲間だとピンとくる人は、もう鳥の世界にのめり込んでいる人だと思う。ふつうサシバといえは、歯医者を思いうかべるのだが。

サシバは埼玉県内に夏鳥として4月に渡来

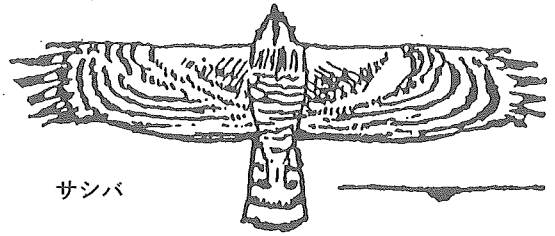
し、10月中旬くらいまで見られる中型のワシタカである。県内の繁殖地は、低地から低山までとかなり広く分布しているが、主に丘陵地で繁殖している。低地では平地林の破壊、環境の悪化のため、繁殖地は激減し、わずか

に数か所で繁殖しているにすぎない。

ワシタカの仲間であるサンバ(高次捕食者)が繁殖するためには、広い林(50 ha以上といわれる)が必要なため、サンバが繁殖できる林があることは、他の鳥類・昆虫なども豊富であるということができる。したがって低地の代表的な場所である石戸宿などは、いつまでも残しておきたいものである。

サンバといえど何といってもタカの渡りがある有名である。愛知県の伊良湖岬は10月の上旬になると、全国から来たバードウォッチャーであふれるようになる。しかし、埼玉県でもサンバの渡りは見られるのである(残念ながらが数の多さでは負けるが)。

これからが渡りのシーズン。9月中旬にシギ・チドリ類や小鳥類をじっくり楽しんだ後は、



サンバ

このサンバがねらい目。10月の上旬のよく晴れた朝、ちょっと空をながめてみよう。またじっくり観察したいと思ったら、丘陵地へ出かけてみるとよい。日和田山や鐘撞堂山など360°の見はらしのある小高い山でゆっくりサンバを観察していると、思いがけない種類も出現し、やはり埼玉で見るサンバはいいと思うことだろう。そのためには繁殖できる環境をこれ以上へらさないことだ。

## ノビタキ

今井明巨(熊谷市)

新支部結成から間もないころ、早朝、大麻生の河原へ野鳥観察に出かけ、家に帰って、図鑑を見ながら野鳥日記をつけるのが日課でした。

カワセミの美しいコバルトブルーに目をみはり、アオアシシギの品のある姿にうっとりして時を忘れて夢中になっていた毎日でした。

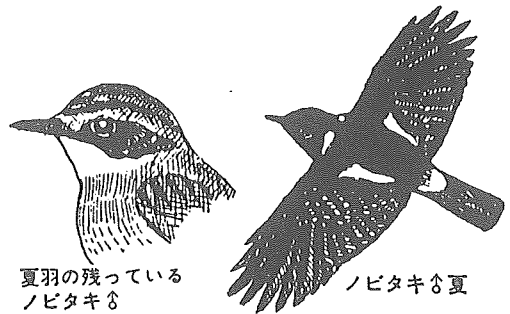
そんな秋のある日、ヤブの中で、シギたちの姿を観察していたら、草原の葉先にとまっているスズメに似た目のパッチリした姿勢のよい鳥を見つけた。ノビタキである。さかんに葉先や地上において昆虫を探がしている。♂は♀にくらべて頭部や背がいくぶん黒い様に見えた。

大麻生の河原は、春と秋の渡りの時期に旅鳥たちが翼を休める格好の場所のようで、シギ類をはじめ多くの旅鳥たちを見ることが出

来ます。

その後、大麻生の探鳥会でも皆さんに見ていただきましたが、ノビタキは、大麻生では11月ごろまで見ることが出来ます。

今、大麻生は、県営ゴルフ場の建設によって、すっかり変わってしまいました。今年の秋はノビタキに会うことが出来るだろうか……。



夏羽の残っている  
ノビタキ♂

ノビタキ♀夏

(カット・日本野鳥の会『野鳥識別ハンドブック』より)

この時期は、コサメビタキ・エゾビタキ、ツバメ類の大群もよく観察されています。シギ・チドリの渡りの最盛期でもあります。カモ類もそろそろ渡ってきます。

また、この時期は、鳥の渡りと台風シーズンが重なってもいます。台風が通過したあとは、おもわぬ所でおもわぬ珍鳥に会えることがあります。要注意です。

なお、9月14日熊谷市大麻生探鳥会ではノビタキ君に、9月15日浦和市秋ヶ瀬探鳥会ではノビタキ君とツツドリ君に、9月23日寄居町鐘撞堂山探鳥会及び9月28日伊奈町無線山探鳥会ではサンバ君たちにそれぞれ予約しておきました。ぜひ、ご参加ください。

# 街のチョウゲンボウ

平野伸明 (上福岡市)



最近、タカの仲間チョウゲンボウが、人工建造物を利用して繁殖した例が次々に報告されています。一般に、ワシタカと言えば、深山幽谷に棲む鳥というイメージがありますから、何か異和感を抱きがちです。ところが、ヨーロッパなどでは、チョウゲンボウ(カット・比企裕)は街の中に住むタカとして、極めて普通の存在です。外国の文献には、よく街中のチョウゲンボウが出てきます。ところで、なぜ日本では崖に住んでいたチョウゲンボウが、ヨーロッパのように街の中に進出してきたのでしょうか。それには、チョウゲンボウの生活様式や形態、性質など様々な角度から調べてみる必要がありそうです。とは言え、ひとつひとつ説明しているととても長くなりそうです。ここでは、簡単に彼らの衣食住を見てみましょう。

まず衣です。“衣”と言っても、様々な角度から意味合いが違ってきますが、羽根模様を見てみますと、彼らは実に目立たない地味な鳥です。形も、ちょっと飛んでいるのを見ただけでは、ハトとそっくりです。しかし、目立たないと言うことはとても重要な事です。特に、街中などで人に目立たないという事は、ワシタカに特別な感情を持つ人々に対して、とても大切なことです。また、乾燥地帯である街中にも、彼らの地味な模様は良くとけ込みます。もともとチョウゲンボウは、乾燥地帯に住めるよう機能が発達しているのです。

## 会員の声



「クワン、クワン、クワン」と不思議な声。すぐに続いて立派な「カア、カア、カア」。また「クワン、クワン、クワン」。そして「カア、カア、カア」。30分ほど続いたでしょうか。カラスの鳴き方教室のようなほほえましい声でした。多分、親子でしょうが、カラス君も上手に鳴くのは大変なんですね。覆並 円 (坂戸市)

次に食です。街中のチョウゲンボウは、何を食べているのでしょうか。一般に、チョウゲンボウの主食は、ネズミと考えられています。私が山梨県で調べた例では、そのほとんどがスズメやカワラヒワといった小鳥でした。彼らは、ちょっと巣から離れた郊外の空地で小鳥を狩っているのです。この郊外に住む小鳥たちの天敵はと言えば、せいぜいモズやノラネコくらいなもので、言わばワシタカ類の狩りの空白地帯となっています。そこにチョウゲンボウは目をつけたのではないのでしょうか。チョウゲンボウの飛翔力を以ってすれば、彼らを狩るのはたやすい事です。最近、これら小鳥を狙って、ツミも街中近くに進出する傾向があります。自然界のバランスはうまく出来ているものです。

最後に住です。最近、市街地だけでなく、郊外にも人工建築物がたくさん建ちはじめました。それらもチョウゲンボウは、利用しようとして試みています。単材を特に用いないチョウゲンボウにとって、自然の崖と同じような感覚で、人工建築物をとらえているようです。それに、チョウゲンボウは生来、温和な鳥であり、あまり神経質な性格ではないようです。人が近寄っても逃げませんし、騒音や振動に関しても極めて鈍感で、埼玉県内の東北新幹線の架線橋でも、平気で雛を育てた例を私は知っています。

こうしてみただけでも、決してチョウゲンボウが街に住むのに不思議はないことが、おわかりの事かと思えます。埼玉県内でも街中営巣のたよりが聞こえてくるかもしれません。

早朝、カッコウ、カッコウの声に隣家の目覚時計かと思ったら……本物！窓を開けると東の森から聞こえます。ああ、鳥たちにあいに行きたいなあ。双眼鏡も新しく買ったのだから……と思うのですが、「たまの日曜日、家でゆっくりしたい」と言う主人を捨てておけず…。餌台に集まって来る雀を見て我慢しています。山本美代子 (鴻巣市)

# 野鳥情報

- ミゾゴイ ◇ 6月16日、秩父市田村地区で1羽（浅香 仁）。
- アオバト ◇ 6月16日、秩父市田村地区で1羽（浅香 仁）。
- コアホウドリ ◇ 6月28日、熊谷市で保護。残念ながら7月16日死亡。（今井明巨）
- イカル ◇ 7月9日、大宮市日進町で1羽（森本國夫）。
- アオバズク ◇ 7月10日、蓮田市西口の青少年ホーム手前の屋敷林で1羽（三平正久）。
- ◇ 7月19日、越谷市の大泊で2羽のヒナを確認。ヒナは4羽いたようだが、7月26日2羽落鳥。残り2羽は元気（山部直喜）。
- ◇ 7月28日、熊谷市の高城神社で3羽のヒナが巣立つ（今井明巨）。
- シラコバト ◇ 7月21日、桶川市の桶川西高

- 校東側の田んぼで1羽（田中智恵子）。
- アオサギ ◇ 7月21日、桶川市の桶川西高校東側の田んぼで1羽（田中智恵子）。
- アオアシシギ ◇ 7月26日、渡良瀬遊水池で6羽。
- キョウジョシギ ◇ 7月26日、同地で3羽。
- タカブシギ ◇ 7月29日、同地で38羽。
- タシギ ◇ 7月29日、同地で1羽。
- トウネン ◇ 7月29日、同地で1羽（以上中島康夫）。



コアホウドリ（撮影・今井明巨）

## 新会員制度は来年1月1日から

かねて準備の進められてきた新会員制度、埼玉県支部では来年1月1日から実施される事になりました。

本年中に会費納入月の来る人は、今まで通りの会費をお送りください。

来年1月1日からは、

新会員制度の正会員（本部と支部両方の会員）＝本部から会費納入月のお知らせが届きましたら、本部へ6,000円をお送りください。

正会員の内、今まで本部と支部の会費納入月がずれていた人＝本部の納入月に合わせていただきます。支部として月割り差額をいただく事はしません。ですから、来年納入月通知が届いた時、過去1年間に支部会費を納めている人は、4,000円だけを本部に送ってください。（2年目からは6,000円をお送りいただく事になります）

普通会員（従来支部だけの会員・『野鳥』誌は送られて来ないが、『しらこぼと』は今まで通り届きます）＝本部から会費納入月のお知らせが届きましたら、本部へ2,500円を

お送りください。500円値上りするわけですから、すみません。

家族会員＝正会員または普通会員といっしょに納入月のお知らせが届きます。500円をいっしょに本部へお送りください。500円値下がりしたわけです。よかったですね。

ジュニア会員＝今まで通りです。支部の方から会費納入月の通知が届きましたら、「支部の方に」1,000円を送ってください。

賛助会員＝本部のオフコンに賛助会員のプログラムが組めないとか、支部の事務担当者のささやかな抗議の声をもらっても解決できずこまりました。やむなく支部の方で取扱う事とします。本部の方からは正会員として一律6,000円の納入月通知が届きますが、申しわけありませんが14,000円を「支部の方に」お送りください。4,000円はこちらから本部の方に転送します。

ご質問は事務局まで。ご協力をお願いします。（担当・海老原美夫）



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。  
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば  
双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意く  
ださい。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以  
下＝50円

9月7日(日) 鳩山町 越辺川

— 秋風わたる休耕田 —

午前8時30分東武東上線高坂駅前又は、午  
前9時鳩山町公民館石坂分館集合。(朝霞  
台7:49→川越8:08→高坂8:29着/武  
蔵浦和7:26→大宮7:35→川越7:54→  
東上線へ乗換え。高坂駅から鳩山ニュータ  
ウン行バス乗車)鳩山町中央公民館共催。  
参加費無料。12時ごろ解散。さやさやと葉  
をならして秋風の気配。水面をよぎる鳥影  
は何。(担当=海老原美夫)

9月13日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水池

— シギ・チドリの一大中継地渡良瀬 —

午前9時東武日光線柳生駅前集合(浦和8  
:05→大宮8:11→栗橋8:41東武線乗換  
8:52発→柳生9:02着)。午後2時ごろ  
解散。エリマキシギ、アカアシギ、キリア  
イ、オグロシギ、などなど……。沢山のシ  
ギ、チドリに会えるでしょう。

(担当=中島康夫、楠見邦博、草間和子)

9月14日(日) 熊谷市 大麻生(定例)

— 秋の気配を感じる荒川の河原 —

午前9時30分秩父鉄道大麻生駅前集合(秩  
父鉄道熊谷9:09発→大麻生9:18着/秩  
父鉄道寄居9:12発→大麻生9:32着)。  
アオアシギ、キアシギやトウネンのほ  
か、カワセミも期待できます。(担当=鈴  
木忠雄、堀越照雄、今井明巨)

9月15日(祝) 浦和市 秋ヶ瀬

— シギ・チドリ、カウント探鳥会 —

午前9時浦和駅西口バスロータリー集合。  
午後1時ごろ解散。大久保田圃は県内でも  
有数のシギ、チドリの渡来地です。ムナグ  
ロ、キアシギなどをカウントをしながら  
探します。(担当=福井恒人、小荷田行雄、  
藤原寛治)

9月21日(日) 浦和市 三室地区(浦和市立  
郷土博物館共催・定例)参加費無料。

— 何が渡るか、初秋の三室 —

午前8時15分北浦和駅東口又は、午前9時  
郷土博物館前に集合。午後1時ごろ解散。  
渡りの途中の、シギ類やカッコウの仲間な  
ど、他にも何かに会えます。

(担当=楠見邦博、福井恒人、森本國夫)

9月23日(祝) 寄居町 鐘撞堂山

— 山頂でサシバの渡りを見よう —

午前9時寄居駅北口集合(秩父鉄道熊谷発  
8:28→寄居8:57着/東上線志木7:38  
発→川越7:50→森林公園乗換→寄居8:  
45着)。午後2時ごろ解散。山頂でサシバ  
やハチクマの渡りを見ます。全行程7~8  
km歩きます。足元はしっかりと。

(担当=小淵健二、萩原正二、新井清子)

9月28日(日) 伊奈町、小室無線山

— 秋空にサシバの渡る無線山 —

午前9時ニューシャトル志久駅前集合(大  
宮駅8:30発)。広い森に毎年サシバが渡  
りの途中羽を休めて行きます。(担当=榎  
本秀和、森本國夫)

9月28日(日) 狭山市 入間川

— 川原に遊ぶシギの群れ —

狭山市立中央児童館主催の野鳥観察会。狭  
山市以外の方も、おとなも歓迎。参加費無  
料。午前8時45分西武新宿線狭山市駅西口  
(南浦和7:54→新秋津8:18→乗り換え→  
秋津8:28→所沢8:31→新宿線乗換え8:  
35発→狭山市8:45着)または午前9時  
中央児童館集合。12時ごろ解散。人気の  
カワセミ君、今日は何をしてるかな。(担  
当=海老原美夫、福井恒人)

10月5日(日) 本庄市 阪東大橋

午前9時高崎線本庄駅北口集合。

# 探鳥会報告

7月12日(土) 坂戸市 高麗川

人 32人 天気 曇時々雨 鳥 カイツブリ ゴイサギ アマサギ ダイサギ コサギ カルガモ コジュケイ ヒクイナ バン イカルチドリ キジバト カワセミ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハンボソガラス ハシブトガラス(28種)カワセミが何度も姿を現わして、大サービス。セキレイ類、バン、カルガモの親子連れも見られた。

7月13日(日) 熊谷市 大麻生

人 11人 天気 雨 鳥 カイツブリ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コジュケイ キジ バン イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ セグロセキレイ

ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハンボソガラス ハシブトガラス(30種)大麻生から明戸へ歩く。カイツブリがヒナを背中に乗せ、バンが3羽のヒナに魚を与える、ほほえましい姿に出会う。帰路、熊谷市榎町の坂本家畜医院に保護されているコアホウドリを見た。

7月20日(日) 浦和市 三室地区

人 56人 天気 曇 鳥 コサギ カルガモ コジュケイ コチドリ イソシギ キジバト ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハンボソガラス ハシブトガラス(21種)カルガモの子は親と見間違えるほどになっていた。繁殖を終え、芝川のアン原をめぐりに集まってきたツバメの中にはイワツバメもいた。この日、そのアン原が河川管理のために刈り払われていた。いたるところに人間の手が入って鳥たちには住みにくい環境に。

## 三室の探鳥会 だより

No.2

◇6月のテーマ『がんばれ鳥の親子たち』

三井ビルのカルガモも、見沼用水のカルガモも、同じ子連れだけれど、大きく違うところは、何千何百のギャラリーの中でも平然とマイペースで泳いでいるのと、見つけた子供達の歓声に親鳥は逃げ、ヒナ鳥たちは水の中にもぐり込む、その警戒心の強弱にあまりに差のあることだと思います。しかし、逃げた親鳥も、すぐひき返してヒナ鳥たちにピッタリと寄り添い、恐怖に満ちつつも我々を横目に見ながら、じっとしているさまが何ともいじらしく、野性の鳥の、特に子連れを連れている母親の必死の姿を見る思いがしました。

小川寿一(浦和市)

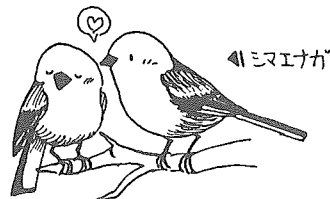
◇7月のテーマ『7月は鳥がなぜ少ない』

深く考えたことがなかったのですが、夏は動植物は活発に活動するわけですから、鳥が少ないわけではないでしょう。この辺りで過す鳥の種類が少ないということだと思います。渡り鳥は、いまの時期は動かないのでしょうか。日本で夏を過ごす鳥も、山の方を好むのでしょうか。ここで過ごしている鳥も、木々にかくれて姿が見えず、実際より少なく感じるということも、原因だと思います。

池田美代(浦和市)

人と同じように暑くて木の中に入ってしまうのだと思う。子供が巣立ってほっとして休んでいるのだと思う。そして、夏鳥は渡るための準備をしているので、鳴いたりするひまがないと思う。

池田琢朗(浦和市)

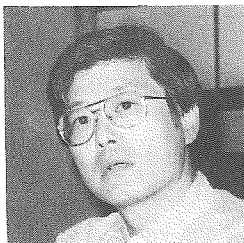


(カット・鈴木加代子)

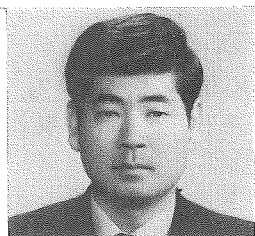
# 連絡帳

## もう1人の監事が決まりました

空席となっていたもう1人の監事に、石川敏男幹事(右写真)が7月13日の役員会で選出されました。設立当初から幹事をつとめているベテランです。



## 事業部長が変わりました



今まで事業部長をつとめてきた草間和子幹事ご苦労さまでした。今井明巨幹事(左写真)に事業部長が変わりました。彼はシンコンです。

## シンポジウムへのお誘い

前月号で都市鳥について語ってくれた川内博さんから、「都市環境に生息する鳥類の生態について」と題する日本鳥学会1986年大会のお誘いが届きました。ヒヨドリ、キジバトなど身近かにいつも見ている鳥たちの話です。ぜひご出席ください、との事です。

日時・9月13日(土)午後3時~5時30分  
場所・東邦大学理学部(千葉県船橋市三山2-2-1) 参加費・300円

## ご寄付ありがとうございます

次の方々からご寄付をいただきました。  
五十嵐輝雄 1,100円 鈴木忠雄 10,000円  
秩父愛鳥会 10,000円 鳥光てる 3,000円

藤野克裕 1,000円 ※50音順、敬称略。  
会員数は  
8月20日現在 576人です。

## 役員会の報告

7月13日(熊谷市) ①事務局と各部の報告、②新会員制度への移行措置、③11月までの行事予定、④リーダー研修会、⑤支部ワッペン、⑥監事の選出、⑦次回は8月10日熊谷市で、⑧その他。

## 事務局日誌

- 7月1日 コアホウドリにつき2新聞社の取材(今井明巨幹事)。
- 8月1日 埼玉県勤労者福祉事業財団の横山教育課長、陸名主任来局。機関誌「ウイアー」の口絵写真について。
- 2日 『しらこぼと』8月号袋詰め(ボランティア9人)。4日発送。
- 5日 県自然保護課へ。「ヘルシー埼玉21県民運動」について。



先日、三峰にブッポウソウを見に行きました。途中からどしゃ降りの雨になり、その中をバイクで行って来ました。雨の中待つこと3時間、ようやく赤いくちばしと緑色の羽毛をキラリと光らせて飛ぶ姿に出会えました。

それにしても、こちらに来る前は、雨の中鳥を見に行くなんてことは考えられなかったのに。誰かさんの病気がうつったのかな。  
(藤原寛治)

題字『しらこぼと』：日本野鳥の会会長・山下静一

(イラスト風見出し・鷹尾正済)

『しらこぼと』	1986年9月号(第28号)	頒価100円(会費に含まれます)
	発行人 今井昌彦	発行所 日本野鳥の会埼玉県支部
発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号	プリムローズ岸町107号	
電話 0488(32)4062		
郵便振替 東京9-121130	銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990	
印刷所 望月印刷株式会社		

(無断転載を禁じます)